

ランピースキン病の早期発見とまん延防止 対策をお願いします！

令和7年1月28日

昨年11月以降、ランピースキン病の発生が福岡県と熊本県で確認されておりましたが、本年1月9日時点で国内の発症頭数が0頭になりました。

国内での感染拡大要因の大部分は、サシバエ等吸血昆虫によるものと考えられています。気温の低下によりサシバエ等吸血昆虫が不活発化し、本病は沈静化傾向にあると考えられますが、本病の病態については不明なところがまだ多く、春先以降の本病の発生状況については予断できません。そのため、冬季のうちにサシバエ等吸血昆虫対策を徹底することが重要です。

ウイルス侵入防止

- ・ サシバエ等吸血昆虫を減らす
- ・ 車内に入り込んだサシバエ等の殺虫



冬前のサシバエ1匹は、来シーズンの1万匹に相当すると言われていました。
(農林水産省HP)

- ・ 消毒の徹底
(消毒用エタノール、逆性石鹼など一般的な消毒薬が有効)

早期発見

- ・ 毎日の健康観察
- ・ 皮膚の結節、発熱、泌乳量の低下などが見られたらすぐに診療獣医師または家畜保健衛生所へ連絡



(写真:福岡県HP)

発生してしまった場合・・・

まん延防止

- ・ 発症牛の速やかな自主淘汰 ➡ 裏面を参照
- ・ 発症牛の生乳出荷・発症牛及び同居牛の出荷自粛

飛騨家畜保健衛生所(飛騨総合庁舎内)

〒506-8688 高山市上岡本町7-468

TEL:0577-33-1111(内線403) FAX:0577-32-9019

E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp※閉庁時には案内メッセージに従って対応をお願いします。

飛騨家畜保健衛生所
家畜衛生情報は
こちら➡



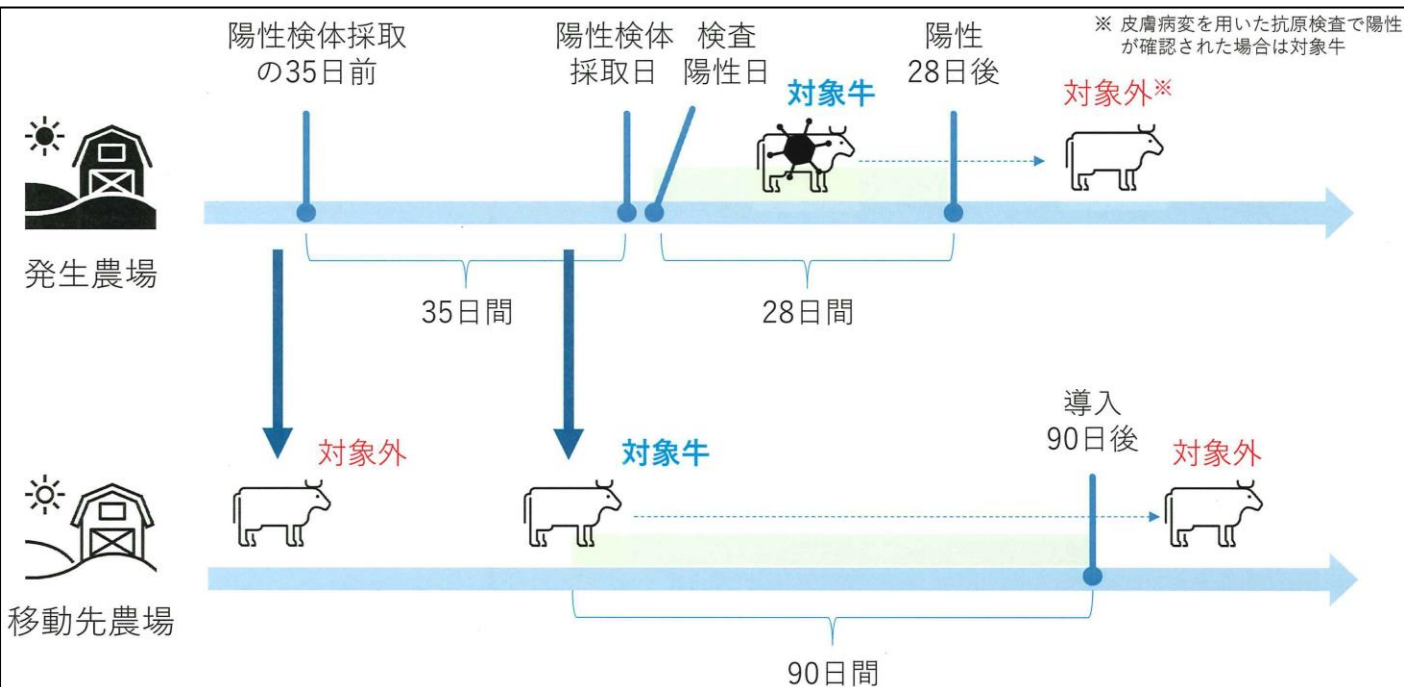
ランピースキン病発症牛等を淘汰し、再導入した場合の補助があります

<ランピースキン病まん延防止自主対策促進事業>

生産者が

- ①本病の発症牛
- ②発生農場からの導入牛

を自主的に淘汰した場合に、経営継続を目的に再導入する取組に対して奨励金を交付



乳用農場

カテゴリー	牛の種類	奨励金額
1	乳用繁殖雌牛（初妊牛）	60万円
	乳用繁殖雌牛（経産牛）	30万円
	乳用育成牛	30万円
2	子牛（和牛）加算	60万円
3	子牛（交雑種）加算	20万円
4	子牛（乳用種）加算	10万円

肉用農場

カテゴリー	牛の種類	奨励金額
1	肉用繁殖素牛	60万円
	肉用繁殖雌牛（初妊牛）	60万円
	肉用繁殖雌牛（経産牛）	30万円
2	肉用子牛（和牛）	60万円
3	肉用子牛（交雑種）	35万円
4	肉用子牛（乳用種）	20万円

○ 淘汰牛に、和牛精液で人工授精していた場合は5万円加算、和牛受精卵移植していた場合は10万円加算。

○ 本病の発症牛である母牛及び子牛（ヌレ子・スモール）を淘汰し、子牛を再導入しない場合には加算金で対応。

※現時点で、岐阜県内に対象農場はありません。

※令和6年度事業の内容であり、今後変わる可能性があります。

※淘汰牛と再導入牛が同一カテゴリーである必要があります。